**2017年6月20日 小池都知事記者会見**　重要部分

東京都庁で6月20日、小池都知事が築地市場移転問題について、記者会見を行いました。築地市場を豊洲市場に移転しつつも、築地跡地も同時に活用する「基本方針」を表明。築地のブランドを生かした活用法となることを訴えました。

1. 小池百合子都知事が記者会見

 2. 築地の伝統やブランドを守る

 3. 「TSUKIJI」を世界へ発信していく

 4. 豊洲は将来的に「中央卸売市場＋物流センター」

 5. 環状2号線を2020年のオリンピック前に開通

 6. 記者からの質疑応答

1. 小池百合子都知事が記者会見

まず、私は築地市場の再開発を含めます市場の新たなプランについてまとめるように都の職員のほうに指示をいたしたところでございます。

理由は2つございまして、まず1つ。**豊洲市場これまで約6,000億**かけて作られてきたわけでございますが、豊洲ありきで移転後の計画が不十分ではなかったか。

そして、これまでの都政において築地市場を売却して費用の穴埋めをするという計画はありましたけれども、**移転後に毎年生じる年間100億円近い赤字**にどう対応していくのか。そしてやがて豊洲が老朽化して、まあ先の話ではありますけれども、更新する時の費用をどうするのか、といったような点はまだよく吟味されていなかったように思います。……

**当初は豊洲市場に移転をして、そして築地市場の跡地を売却、精算をする案**、ということでございましたが、今回のあり方戦略本部では、A、B、C、D、いろんな案が出されたわけでございます。……

それから2点目でございますけれども、**これまで日本一の世界に誇るブランド、築地のブランドというものは、長い間汗水たらして、必死の思いで育て、そして守ってきた市場の方々に対して、真に向き合っていく必要があると感じたから**でございます。……

２. 築地の伝統やブランドを守る

長い間築地市場の方々、東京都民ならず日本が育て、守ってきた築地の伝統やブランド。「私はこれらを守って行くんだ」というその信念と、豊洲で累積してしまう赤字という「将来への負の遺産は残してはならない」という次の世代への思いと、これから日本一の世界に誇る築地ブランドからの食に魂をこめまして、この**「築地を再開発する」という基本方針を判断するに至った**ことでございます。

３．「TSUKIJI」を世界へ発信していく

築地市場の件でございますが、築地市場の状況を、もう一度改めて見直してみますと、**築地市場の価値・高いブランド力というのは、東京都の莫大な資産であると考えられます。高い知名度・長い歴史・日本で唯一市場がブランドになった、稀有な存在と言っていいかと思います**。

そして、**その築地ブランドの核を成すのが、仲卸のみなさま**でございます。この**仲卸の方々の目利き力ということが、まさにブランドの宝の中の宝**という部分だと思います。…

そこで東京都といたしましては、築地ブランドを維持・活用・発展させるということで、新しい戦略を展開すべきだと考えております。そのうえで、透明性の高い制度の運用・改善が必要だと考えております。

これらをベースにいたしまして、基本的な方針でございますけれども。「築地は守る」そして「豊洲を活かす」ことを、基本方針の1とさせていただきます。「築地のあとは築地」ということも、言えるかと思います。

４．豊洲は将来的に「中央卸売市場＋物流センター」

築地市場の土地は売却せずに保有して、むしろ有効活用することでキャッシュを継続的に創出できるのではないかと考えております。

豊洲は将来的に物流機能も強化した中央卸売市場＋物流センターとして、効率経営に徹するということで、赤字の負担を軽減しつつ、存続も可能としていくという考え方でございます。

よって、豊洲、そして築地、これらを両立させることが最も賢い使いみちではないか。そしてその鍵は、市場会計が独立採算制の本旨に立ち返って、そして規律のある築地再開発、そして豊洲活用による自立経営を目指すことにあるのではないかと考えております。…

**豊洲への移転、築地への復帰ということ。これは、それぞれの方々が、選択をされることになるかと思いますけれども。とくに、仲卸業者への経営支援の措置については、検討して参りたいと考えます。**

６．記者からの質疑応答

\*小池\*：基本的にそれはまさしく業者の方々の経営方針、判断によるものだと思いますが、しかしながら**仲卸の方々というのはやはり築地だからこそ経営が可能だと考える方々もおられるわけでございまして、そういった方々に対しては、築地へまた復帰される際のお手伝いはさせていただく**ということでございます。